

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	2392100067
法人名	医療法人 羽栗会
事業所名	グループホームむらさき麦の郷
訪問調査日	平成 21 年 3 月 25 日
評価確定日	平成 21 年 4 月 15 日
評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2392100067
法人名	医療法人 羽栗会
事業所名	グループホーム むらさき麦の郷
所在地	愛知県岡崎市藤川町字岩田29番地1 (電話) 0564-48-6310

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中村区松原町一丁目24番地N203号室		
訪問調査日	平成21年3月25日	評価確定日	平成21年4月15日

## 【情報提供票より】(平成21年3月2日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 5 月 8 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 8人, 非常勤 10人, 常勤換算	12.5人

### (2) 建物概要

建物構造	木 造り	
	1 階建ての	1 階

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	42,000 円	
敷 金	なし			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	円

### (4) 利用者の概要(3月25日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	6 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4			
要介護5		要支援2	1 名		
年齢	平均 79 歳	最低	66 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	みなとクリニック 羽栗病院 うちだ歯科医院
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

旧東海道宿場町として栄えた藤川の地に、平成20年5月に開設された新しいホームは、木造平屋建ての2ユニットからなる。玄関を入ると、天井高の広々としたエントランスホールがあり、その一角には足湯ができるコーナーも設けられている。共用空間には、多目的に利用できる和室もあり、建物コンセプトは旅館のようにと考えられている。利用者の居室には、旅館のように花の名前がつけられている。居室も洋室と和室が準備されて、トイレが各ユニット4箇所と多く設けられている。部屋の掃きだし窓にはプライバシーを守るフィルムが貼られ、ベランダには各部屋ごとの物干し竿も取り付けられており、高さ調節も利用者に合わせることが出来る。とにかく新しく、どちらかと言えば、現在の時点では、やや豪華なグループホームである。職員、管理者とも若く、今後のホーム運営に意欲的に取り組もうとしている姿勢がうかがえる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	平成20年5月の開設であり、今回が初めての取り組みである。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は、自己評価票を全職員に配布し記載を求め、全員の記入済み分を総括し、まとめる形を取った。開設1年目で、職員にとって自己評価の項目理解が不十分であったと管理者は認識している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進委員会は2か月ごとにホームの会議室で開催されている。地区総代、市職員、民生委員、地域包括センター職員、老人会会長、利用者とその家族などの出席がある。利用者とその家族は固定的ではなく、交代で参加するようにしている。会議では、ホームの様子や行事報告をし、ホームへの理解を深める機会となっている。地区の代表の町内会長や民生委員からは、協力的な意見が出されている。会議で地区の防災訓練参加の呼びかけがあった際には、それに応えて利用者と一緒に参加した。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者は地元の人が多く、家族の来訪もある。来訪時には、利用者の様子を伝えるとともに、要望や意見を聞くように努めている。ホーム利用料金の見直しの声があり、料金の改定(値下げ)をしたこともある。運営推進委員会には、利用者とその家族が出席してもらっており、率直な意見の交換の場になっている。また、玄関には意見箱が置いてある。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 運営方針にも地域を生活圏として、地域の一員として暮らすと謳っており、地域との繋がりと大切に考えている。町内会に加入し、地域住民の好意により回覧板で情報提供をしてもらっている。ホームの畑でできた野菜を、近隣住民に届けたりして交流する機会を作っている。昨年は、町内会からの呼びかけで地区の防災訓練に職員、利用者が一緒に参加した。運営推進委員会には地元住民の参加もあり協力的である。今後は近隣の小学校との交流も検討されている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営方針にそって、『地域の中でその人らしい暮らしができる生活支援をする』を理念としている。『ふれあう喜び、助け合う喜び、信じ合う喜び』を謳い、『ともに生活する絆を大切に』している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	これまで開設1年目を、ただ、がむしゃらに駆け抜けてきた。ここで、2年目を迎えるにあたり、理念とする『地域の中でその人らしい生活を大切にする支援』の具体的な実現の方策として、どのような言葉(スローガン)を掲げることが、職員とも共有出来るかを現在検討中である。	○	職員と共に言葉(スローガン)作りをするプロセスを通して、理念の共有化と具体的取組みへのイメージ・行動指針等が形成されていくことを期待したい。開設初年度を経て、将来の具体的基礎作りの時期に入るので健闘を祈りたい。
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、ホームの畑で採れた野菜を隣近所に、おすそ分けするなどの交流がある。昨年は、町内会からの呼びかけがあり、地区の防災訓練には利用者と一緒に参加した。運営推進会議には、地区総代も参画しており、地域への溶け込みの努力が見受けられる。町内にはホーム職員も住んでいる。	○	地域の小学校・幼稚園等の子供たちや「むらさき麦栽培」を軸とした高齢者との交流を通じて、地域の社会資源施設としての活動に創案と工夫をされることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての取り組みとなった。管理者は自己評価票を全職員に渡し記入を求め、提出されたものを管理者がまとめる形をとった。開設1年目であることもあり、職員の自己評価項目の理解が十分でないことや、取り組み方にはまだまだ改善の余地があったと管理者は総括している。	○	自己評価を通じてベテランから新人職員まで、事業の意義を再認識することが窺えたので、自己評価・外部評価の意義理解を深める取り組みをして、提供サービスの更なる向上につなげるよう期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は、2か月毎にホーム会議室で開かれている。会議には地区総代、老人会会長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員、利用者とその家族の参加がある。会議では、ホームでの様子や行事報告をしたり、地域の参加者からは地元の情報やアドバイスを受けたりした有益な意見交換をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当職員が運営推進会議に出席しており、ホームの様子は把握している。ホーム開設時から市の担当者との連絡、相談は密にしている。岡崎市の介護事業者が集まる会のグループホーム部会にも参加して、情報の収集や交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の多くは市内からの入居であり、家族の訪問も多い。家族への報告は来訪された時に出来るだけ細かく報告している。金銭の預かりはなるだけ少額として、家族が訪問したときには、その都度補充していただき、同時に明細を示して了解をとり、確認の印をもらっている。	○	家族のホーム訪問時報告の他にも、暮らしぶりが分かるような「ホーム便り」などの発行等、今後の検討・企画を望みたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、利用者とその家族が、交代で参加している。会議の席では、率直な意見交換がなされている。家族が訪問された時には職員から明るく挨拶していて、家族が話しやすい雰囲気づくりや、気軽に要望を言えるように努めている。玄関には意見箱も置かれていて、家族の意見を取り入れようという姿勢と仕組みがある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設初年度は入居者を数名ずつ受け入れ、ゆとりを持って職員との馴染みの関係作りを優先してきた。常勤職員は開設時から異動はなく、担当が替わることはなかった。ただ、利用者の増加に合わせて、新規採用した職員の定着では苦労した様子であるが、現在は、概ねホームの生活にスムーズに馴染んでいる。職員は行事などを一緒にしているので、お互い顔見知りになっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での年間研修計画は今のところないが、外部研修の案内があれば、職員に知らせている。新人職員には、介護経験に応じ、業務のなかで研修をしている。職員、管理者とも若く相談や質問がしやすい雰囲気である。管理者も質問がある時は、いつでも対応できるようにしている。	○	向上心の高い職員も多いので、認知症の基礎知識付与やケアの方法並びに資格(介護福祉士等)取得を促進する、内部研修体制の構築や外部研修派遣の制度を、母体法人と連携して検討することを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岡崎市のグループホーム部会(小部会)に所属して、情報交換をしている。管理者は他の協議会への参加を検討している。ホームの関連施設職員との情報交換はある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望があった時には管理者自ら、利用者の家庭や入院先に出かけて情報の収集に完全を期している。事前受付シートを用い、利用者の状況を細かく把握し、入居後の生活がスムーズいくように活かしている。ホームでは、食事代金のみで体験入居できる仕組みもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者、職員は共に暮らす仲間として支え合いながら生活を送っている。家事全般を共に行い、利用者から教えられることもある。ホームはみんなの生活の場として、ラジオ体操の後、職員、利用者が一緒に掃除等の家事全般をしている。広い廊下などのモップがけを引き受けてくれる利用者もいる。『生活即家事』であるという管理者の考えが貫かれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの自宅を訪問したり、生活歴を聞き取ったり利用者の思いや意向の把握に努めたケアをしている。その中から出来ること、出来ないことを見極め対応している。盆栽好きな利用者には、自宅から盆栽を持ち込んでもらい、陽だまりスペースでの盆栽の手入れを日課にしている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	毎日のケア記録は詳しく記載され、記入には、昼間は黒ペン、夜間は赤ペンと工夫されている。このケア記録をベースにして、本人、家族の要望を聴き取り、利用者の担当職員とケア作成者が中心となって介護計画は作られている。作成した計画は家族に説明され、了解を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回、各利用者ごとに、介護計画を見直し検討されている。検討されたケア計画書は、家族にその都度、説明をし理解してもらったうえで承認を得ている。状態の変化がある場合は、すぐに計画の再見直しを随時行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームでは、個人的な買い物や理髪店等に出かけることを希望される場合には、有料であるが職員が同行している。緊急時には、連携医療機関の他に、母体法人の病院を受診できる体制にある。また、母体法人の病院看護師の協力もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には、かかりつけ医の確認をしている。基本的にはかかりつけ医の受診を尊重し、入居以前の主治医への通院介助は、基本的に家族にお願いしているが、家族の同行が出来ないときは、職員が対応している。連携の協力医療機関も地域内にあるが、夜間等の緊急時には母体法人の病院でも受診体制が出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化したときの対応については、入居時に家族に説明している。実際に重度化した場合には、家族と綿密に連絡をとりあい方針を決定している。関連施設に病院、老人保健施設があることを事前に知らせている。今のところ介護度は高くないためターミナルケアは今後の検討になる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録書類は事務室に保管している。利用者の居室ネームプレートの花の名にして、外来者には誰の居室かが分からないような配慮がある。部屋の掃き出し窓には遮光の保護フィルムが貼られ、外部からは室内が見えないようにして、プライバシーが保たれる工夫もある。徘徊には名札をつけるのではなく、利用者の靴の内側に家族の了解をえて名前を書き対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の概ねのスケジュールはあるが、強制しない自由な生活が出来るよう配慮している。好きな盆栽を持ち込んで手入れをする人、むらさき麦の栽培をしたり、編み物を楽しむ人もいる。ホームの畑づくりに役立てようと植え付け作物の研究書を読む人もいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食堂には、メニュー専用のホワイトボードが掛けられ、文字を書くのが得意な利用者によって書かれている。テーブルにはランチョンマットを敷き、豪華な雰囲気作りをしている。ご飯は、高齢者向けに若干やわらかく炊き上げている。食事づくり・後片付けの食器拭きなどを職員と一緒にして、食事に係わる作業そのものも楽しみに取り入れている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日は決まっているが、時間は利用者の希望に添うようにしている。脱衣場にはカーボンヒータが置いてあり、浴室との温度差をなくすような配慮がある。玄関ホールには足湯のコーナも設けてあり、利用者の楽しみになっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のこれまでの生活歴や経験を日々の関わりから把握し、ホームでの役割、楽しみごとを支援している。来訪者へのお茶出しをする人、メダカの餌やり、モップがけ、食事のメニュー書きなどを出来る人が行っている。女性の利用者たちは誕生会などがある時は、職員からマニキュアをしてもらい、おしゃれを楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買出しに車で20分位のスーパーに定期的に出かけている。その際には職員だけではなく、利用者で行ける方には声かけをして同行してもらっている。ちょっとしたドライブ気分を出かけるのを楽しみされている。	○	自然の空気に体と五感で触れることは大切であり、下肢筋力低下予防にもなるので、外出が出来る利用者には、小グループでの散歩を兼ねた近隣への外出をするような機会を増やすよう、引き続き、取り組みに期待したい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はされていない。利用者が出かける際の気配を察した時は、職員がそっと見守り同行をして安全確保を図っている。玄関にはセンサーがあり、誰かが通過するとセンサー音でキャッチでき、安全面も確保されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回実施している。地区の防災訓練には利用者も参加した。夜は2人(夜勤と宿直)の職員体制が取られ、安全対策の配慮をしている。近隣住人に協力体制のお願いもしている。3日分の飲料水・食糧(けんちん汁・カレー・ご飯)の備蓄品を用意している。非常口は火災報知機と連動しており、報知機の可動と同時に開錠出来るシステムになっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立はホーム職員が好みと栄養バランスを考え作成されるが、関連施設の管理栄養士のアドバイスもある。野菜を多く採れるような献立作りをしている。酢の物野菜も食べやすく柔らかくなるような配慮もされている。食事、水分摂取記録は細かく書かれている。食卓にはお茶が置かれ、水分補給をするようになっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは温泉旅館の雰囲気を出すインテリアになっている。ホールには、足湯ができるコーナーがあり、広い和室もある。廊下は車椅子やシルバーカーの人がすれ違っても十分な広さがある。各ユニットごとに4箇所の車椅子対応のトイレもある。広い和室、陽だまりスペースやサンルームがあり、共用空間として贅沢なほど充実している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洋室と和室が用意されている。和室には障子戸が用いられ家庭の和室のようである。各部屋にはベッド、洗面台と押入れが備えてある。利用者は自宅から馴染んだ家具を持ち込んだり、写真を飾ったりしている。小型冷蔵庫を持ち込んで好きな飲み物を楽しむ人もいる。		